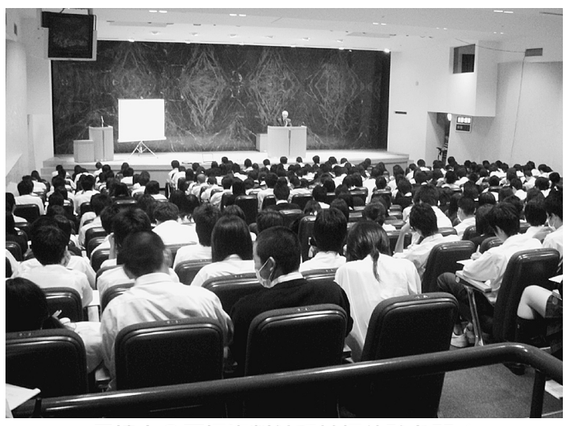
体験通し自身を育てる

観光型から体験型へといった言葉は、何やら常套語のような感じさえ抱くようになった昨今、型にはまった体験や得るべくして得る感動を超えて、よりアクティブな探究心へと行動パターンが変化しつつあるようだ。一方、貴重な文化財や自然などの地域資源が観光化されるなかで、観光地と呼ばれる地域であえて本来の姿を見直そうとする動きもある。どちらも理に叶っている。では、学校が求め・実施している旅行とはどのようなものか。目的や教育的意図、効果などを聞いた。

埼玉県立 川口高等学校
長崎、松浦　3泊4日　09年9月　実施


長崎市の原爆資料館で被爆体験を聞く

松本勝教諭

埼玉県立川口高校は、生・全8クラス、約300人が参加。9月29日～川口市で初めての中学校として戦前の1941年に創立。69年の歴史から、親子3代で通ってきたという家庭も少なくない。30分以内で通学できる生徒がほとんどで、朝や放課後の練習に参加しやすいこともあって、運動部を中心に部活動に打ち込む生徒が多い。地域に密着した高校だ。

昨年の修学旅行は2年生・全8クラス、約300人が参加。9月29日～10月2日までの3泊4日、長崎県で実施した。長崎での平和学習と松浦での民泊、体験プログラムをメーンにした行程で、この年で4年目になる。

事前学習として6月、前年に松浦での民泊、体験を行った3年生から話を聞く会を開催した。平和学習に向けては、夏休み期間中に、戦争を扱った映画を視聴覚室で見られるようにした。また、原爆が広島に投下された8月6日、長崎投下の8月9日、終戦の8月15日に関する新聞記事を掲載したオリジナルの新聞「私の平和新聞」を生徒に作らせ、9月上旬の文化祭にその平和新聞を展示した。

修学旅行の1日目は、羽田空港から福岡空港に入る。福岡市内で昼食を取った後、長崎市・平和公園内の原爆資料館で、被爆者の人から被爆体験を聞いた。被爆の実態と現実を知り、さらには、核に頼らない国づくりも考えてほしいという意図があり、記録集にまとめた。平和公園では平和祈念像の前で平和を願うセレモニーも行った。宿泊は長崎市内のホテル。

2日目の午前中に、長崎市内で班別自主研修を行った後、民泊・体験先の松浦に移動する。松浦の良さについて、修学旅行を担当した松本勝教諭は、「埼玉県は海なし県なので、海があって漁業体験ができて、さらに、農業体験もできるところ」と説明する。また、教員の顔をよく見る。みんな緊張していて、不安そう」（松本教諭）。

かから団子づくり

鯵を3枚に開く

クルージングも体験

農家体験、夏果栽培、押しずしづくり、かから団子づくり、阿値賀島自然観察クルージングなど多彩だ。まつうら党交流公社から提示された約100種類の中から、予め生徒が選ぶ。「男女を問わず、人気があるのは船釣りや定置網漁」（松本教諭）。

昼食時には、交流を図るため生徒、教諭の全員が集合する。「うちのお父さんお母さんの家はこうだった、こんな料理だったとか、手伝いはこういうふうにしているとかいう話をわいわいやって、あっという間に時間が終わる」（松本教諭）。

午後にも同じ民泊家庭の元で午前とは異なる体験学習を行うのだが、敢えて昼にいったん生徒を呼び戻すのは、顔色を見て、体調が悪そうな生徒は教諭陣が引き取るという狙いもあるからだ。

民泊家庭での最後の晩は、前日にはしなかった、夕飯の手伝いもする。

最終日の4日目は、朝7時半頃から離村式。「女の子だけでなく、男の子も涙ぐんでいるグループがけっこうある。やはり2日間生活を共にしていると情の行き来があるのだろう」（松本教諭）。

その後、福岡空港までの途中、太宰府天満宮に寄る。3年生での受験を控え、合格を祈願したりお守りを買ったりする。

長崎での平和学習と松浦での民泊、体験プログラムを柱とする川口高校の修学旅行。どちらも目的的根底にあるのは参加体験型だ。松本教諭は「最近よく言われる『子供たちの生きる力』を考えた時、人間として大きくなるキーワードは『本物に接する』、見たり聞いたりの受け身だけではなく『自分で体験をする』こと。この体験ですぐに何かが変わるわけではないだろうが、後の人生で振り返った時に、必ず役立つものだと思う」と語る。

平和学習と感動体験
本物に接し自ら考える

和牛農家では牛の世話も体験した

離村式では思わず涙ぐむ場面も

受け入れコーディネート組織の「まつうら党交流公社」は、受け入れ実績が豊富で、安心感があるという点も選定理由の1つだ。

松浦の民泊地では、生徒数が多いために、生月地区と志々伎地区の2カ所に分けた。1家庭に入る生徒の数は男女別の4人。夕方に行った入村・対面式で、お世話になる計80家庭と顔合わせをし民泊では「川口にいる時とは全然違った動きをする。朝起きて夜寝るまでの生活を通じて、地域の人たちの生き方、あるいは考え方に触れて、自分を見つめる時間を生徒に持ってもらいたい」と松本教諭。

翌3日目は、午前8時半から、それぞれの民泊家庭で漁業や農業の体験学習。体験メニューは、船釣りや定置網漁、和牛農家体験、夏果栽培、押しずしづくり、かから団子づくり、阿値賀島自然観察クルージングなど多彩だ。まつうら党交流公社から提示された約100種類の中から、予め生徒が選ぶ。「男女を問わず、人気があるのは船釣りや定置網漁」（松本教諭）。

昼食時には、交流を図るため生徒、教諭の全員が集合する。「うちのお父さんお母さんの家はこうだった、こんな料理だったとか、手伝いはこういうふうにしているとかいう話をわいわいやって、あっという間に時間が終わる」（松本教諭）。

午後にも同じ民泊家庭の元で午前とは異なる体験学習を行うのだが、敢えて昼にいったん生徒を呼び戻すのは、顔色を見て、体調が悪そうな生徒は教諭陣が引き取るという狙いもあるからだ。

民泊家庭での最後の晩は、前日にはしなかった、夕飯の手伝いもする。

最終日の4日目は、朝7時半頃から離村式。「女の子だけでなく、男の子も涙ぐんでいるグループがけっこうある。やはり2日間生活を共にしていると情の行き来があるのだろう」（松本教諭）。

その後、福岡空港までの途中、太宰府天満宮に寄る。3年生での受験を控え、合格を祈願したりお守りを買ったりする。

長崎での平和学習と松浦での民泊、体験プログラムを柱とする川口高校の修学旅行。どちらも目的的根底にあるのは参加体験型だ。松本教諭は「最近よく言われる『子供たちの生きる力』を考えた時、人間として大きくなるキーワードは『本物に接する』、見たり聞いたりの受け身だけではなく『自分で体験をする』こと。この体験ですぐに何かが変わるわけではないだろうが、後の人生で振り返った時に、必ず役立つものだと思う」と語る。

愛知県立 東海商業高校
広島・四国　2泊3日　09年11月　実施

大満足の松山体験の締めくくりは道後温泉で

国枝裕校長

修学旅行のコース選定は難しい。学習効果と参加生徒の満足がともに満たされなければならないからだ。生徒へのアンケートや、旅行業者に任せてしまうなどの場合が多い中で、愛知県立東海商業高校(国枝裕校長)のケースは、選定のプロセスでユニークなケースといってもいいだろう。学習効果を満たしたい学校側と、体験学習などの充実したプログラムを体感し受け入れ体制の充実が、学校側の目的と合致したことに疑う余地はない。そうして生まれたのが08年度から始まった「広島～四国（愛媛・松山と香川）コース」の修学旅行だった。

同校の修学旅行は、第2学年の11月に毎年実施されている。09年度も、それに変わりはない。コースは、1日目が広島での平和学習をメインに据え、2日目が松山での体験学習、3日目が香川での体験と見学の後に帰途につくもの。その行程を追ってみると、1日目の広島では、平和記念公園、原爆資料館、厳島神社をめぐり、平和記念公園では各クラスで作った千羽鶴を捧げた。ここまでは定番の平和学習コースだが、2日目にさまざまな体験が待っていた。

2日目の朝は、宮島から松山への移動で、高速艇とスーパージェットに分乗した。ここに、松山市の体験学習プログラムの多様性がある。同市では、瀬戸内海エリアを面として捉え、広島と京都、大阪、神戸などの関西を結ぶ中間点として松山市を位置付けた「ゴールデンルート」を提案している。広島から松山への移動では、定員や速度の異なるスーパージェット、高速艇、フェリーの3種類の船をチャーターできるようにした。同校もこれを利用して3コースの班別行動（サイクリング、砥部コース、中島コース）を実施したわけだ。

班別行動のうちサイクリングコースは、しまなみ海道をサイクリングする予定だったが、あいにくの雨天で中止。生徒は残念がったが、そうした場合も日本食研の工場見学といった代替えが用意されており、無為に過ごすことはなかった。砥部とのほか、とくに好評だったのは、綿密な事前打ち合わせで出された食事メニュー。修学旅行の食事とは思えないメニューで、内容とともに、アレルギーのある生徒には別メニューを用意するなど対応も細やかだった。また、道後温泉中心部の立地も好感され、「宝荘ホテルがすごく良かった」「ゆっくりと道後温泉を散策することができた」と生徒の評は上々。

3日目は、香川へ移動して、体調が悪そうな生徒は教諭陣が引き取るという狙いもあるからだ。

民泊家庭での最後の晩は、前日にはしなかった、夕飯の手伝いもする。

最終日の4日目は、朝7時半頃から離村式。「女の子だけでなく、男の子も涙ぐんでいるグループがけっこうある。やはり2日間生活を共にしていると情の行き来があるのだろう」（松本教諭）。

その後、福岡空港までの途中、太宰府天満宮に寄る。3年生での受験を控え、合格を祈願したりお守りを買ったりする。

長崎での平和学習と松浦での民泊、体験プログラムを柱とする川口高校の修学旅行。どちらも目的的根底にあるのは参加体験型だ。松本教諭は「最近よく言われる『子供たちの生きる力』を考えた時、人間として大きくなるキーワードは『本物に接する』、見たり聞いたりの受け身だけではなく『自分で体験をする』こと。この体験ですぐに何かが変わるわけではないだろうが、後の人生で振り返った時に、必ず役立つものだと思う」と語る。

広島や松山で体験ほか
学校間の交流へも発展

動物に圧倒された砥部動物園

中島ではみかん狩りを体験

広島で平和学習（原爆ドーム）

慣れぬ手つきでうどんづくりに挑戦

中野うどん学校でうどんづくりの体験。もちろん、昼食はうどん。その後、金毘羅宮を参拝して帰路についた。

この間、2日目に国枝校長が、松山の観光課職員と一緒に松山商業高校を訪問した。観光課職員の仲介で、商業高校同士の交流をすることになり、結果はすぐに表れた。交流の第1弾として今年1月には、女子ソフトボール部の交流試合が松山商業高校のグラウンドで行われ、松山市長も観戦した。今後、同校文化祭での松山商業コーナーや松山の紹介コーナーをつくる予定や、インターネットを使った交流などが検討されている。修学旅行の副産物を超えた域への発展は必至だ。

同校の松山への修学旅行には、いくつもの後日談がある。同校が松山を訪れたことで、同市の修学旅行誘致を活性化できたとする松山市が、感謝状を授与。ほかにも、JR四国の特急「しおかぜ」に、同校の修学旅行生の写真が載ったラッピング列車が、NHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」をデザインしたラッピング列車の1車両に登場した。松山の観光PRに一役かった形だ。

この修学旅行について国枝校長は、「プラン内容は満足している。松山市観光課職員と学校が、互いにギブアンドテイクして絆ができた。松山市に歓迎され、そこから交流が広がりつつある。単なる修学旅行の枠を超えた予想外の素晴らしい学校行事にすることができた」と話す。

“観光・サービス業界で活躍する卒業生は美しい”

「美しい接客」を学ぶ業界直結の専門学校

募集科

■旅行科　■ホテル科　■ブライダル科　■エアライン科
■エアポート科　■鉄道サービス科　■テーマパーク科

全科　昼間部・夜間部2年制

学校法人 トラベルジャーナル学園
ホスピタリティ ツーリズム専門学校
〒164-8550 東京都中野区東中野3-18-11　FAX 03-3360-3845

お問い合わせ・ご質問は、下記フリーダイヤルまたはメールにて
フリーダイヤル　0120-115-784
メールアドレス　sodan@trajal.ac.jp
ホームページ　http://trajal.jp

映画村の体験学習

本物と自然と昔にこだわる

清水焼絵付け体験 ＜【素焼】陶芸作家の岡本和芳さんの指導により、生地に絵付けをしていただきます。【京焼】白色系に焼き上げた器やグラスに3色のカラーを使って絵付けをしていただきます。

NEW ドラマ映像講座　シナリオ(台本)を教材にコンテづくりを解説。次にそのコンテをもとに撮影したサンプル映像をご覧いただいて、ドラマの映像づくりのひみつを学んでいただきます。

殺陣講座　東映京都撮影所の殺陣師が立ち回りの形をお教えします。もちろん安全性は十分配慮しています。木刀を使って時代劇を体験してください。

京扇子・京うちわ手描き体験　舞踊や茶道にも欠かせない扇子やうちわは京都の伝統産業のひとつです。専門家の指導のもとにオリジナルの絵柄を描いて楽しんでください。

NEW 万華鏡手づくり体験　素朴な風合いの「万華鏡」づくりを、創業明治26年の老舗和紙工房とのコラボレーションにより実現！色とりどりの千代紙を選んでオリジナルの「万華鏡」づくりを制作体験いただけます。

きもの着付け体験　京都は西陣織などの和装産業が盛んな都市です。きもの姿で映画村の江戸の町を歩いてみませんか。着付けのスタイリストがお手伝いいたします。

本格的時代劇扮装体験　メイク、結髪、着付けまで東映のベテラン専門家がお手伝いし、映画やテレビに出演するスターと同じ本格的な時代劇扮装をお楽しみいただけます。

※体験学習は全て有料・要予約となります。

TOEI KYOTO STUDIO PARK
東映太秦映画村

体験学習のパンフレット・DVDのご請求、お問い合わせ、お申し込みはこちらまで!
〒616-8586 京都市右京区太秦東蜂ヶ岡町10番地
お問い合わせ Ⓕ075-864-7716　催し物ガイド Ⓕ075-864-7788
営業時間/9:00～17:00（12月～2月は9:30～16:00まで）
休村日/12月27日～31日　http://www.toei-eigamura.com